
タフガイ

偽ニカラグア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タフガイ

【Nコード】

N0021P

【作者名】

偽二カラグア

【あらすじ】

タフなガイの話

それ以上でもそれ以下でもない

35センチ砲（前書き）

読むな

35センチ砲

密林の中。

ベトナム。

アメリカ軍の第三陸次歩兵大隊。
第二十二小隊は雨の中を進んでいた。

彼の名はアレックス。
この隊の通信兵だ。きのうも四人、敵にとられた。もう気が気じゃない。

アレックス「!？」

茂みがうごく、敵兵か！

あらわれたのは筋肉隆々のタフガイだった。

皆あぜんとしている。

なぜかって？

奴は二メートルあるのに全裸だったからさ

アレックス「お、おい仲間か?! 所属は! どの部隊だ、」

タフガイ「オウスウシ」

は？

はあ？！

そのときだったベトコンが撃ってきた。

まずい。

ジンケイがばらばらだ。

まさかこいつを餌に俺達をやるつもりとしてきたのか？

ところがタフガイがそれをとめた、ベトコンをこなごなにしはじめたのだ。

イチモツで。

タフガイ「カアアイザア」

やつは血をぬぐわずいきりタチつくした。

私はその後帰還したが彼をみたものはいない。

ありがとうタフガイ。

三十五センチ相当のタフガイ

35センチ砲（後書き）

読むなっ
ていつたのに

36 戦無敗（前書き）

読むな

36 戦無敗

レバノン。

これは現在から少し前。

停戦の約二日前のできごとである。

私の名はアレックスジュニア。

父はベトナム帰還兵だ。

私は戦場カメラマンとして、戦地を駆けまわっていた。

かつて父がいた戦地だ。

弾薬と血の匂い。

くわえて凄まじい緊張と死の連鎖

私は、帰還後、人殺しよばわれされ、心に傷をおった父のような帰還兵達の汚名と侮辱をはらすべく。

日々、戦争の酷さを写真に焼き付け、世界中につつたえてきた。

ただひとつ、父の死に際の話だけがずっとひっかかっていた。

鋼のタフガイの話だ。

三日前午後三時。

写真をとる。

銃の音。

パタン！パタタン！

酷い。

あっというまにさっきまでの隣人の笑顔が消えて、肉の固まりにな

る。

人間が物にかわる。

近くできこえる音。

パタン！パタタン！パタタン！パタタン！。

ふりかえる。

シャッターを、き、く、

なんだ?! なんだあれは?!

壁に穴をあけている高速で、スクワットのポーズで。

しかもイチモツでだ。

なんだ？あれは？！白人？！

2メートルの全裸の筋肉。

まさか、あれは、、

父の言葉がおもいうかぶ

あれがタフガイ！？！そんな馬鹿な！？

父さん！！

そうおもい、私はタフガイを写真にとろうとした。

次の瞬間、カメラが突きこわされる。

「シルベスタ」

タフガイだ！

なっ！？

な。なぜだ！カメラだぞ！？

予備のデジカメをかまえる。

再び破壊。

「ナアンバグラン ドカゲツ」

その後爆発

意識が遠のく

だが私は一命をとりとめた。

だがその後あのタフガイをみてはいない。

36戦無敗（後書き）

よんだな。。

37 銭（前書き）

みたやつ死刑

37 銭

世界三代珍味フェスティバル

日本。

東京

小金井

松田優作に憧れるフリーター、田中賢三は三代フェスタにバイトで
きていた。

どうぞー。ベルーガの最高級ですよ

まったくうれやしねー。

五万なんか誰がはらうんだよ、てかバイトだい大丈夫なのか？！

あー、田中君、フォアグラもってきて、地下冷蔵庫にあるから。

へいへい。

まったくやってらんないよ（優作風）

地下、

まったく、なんでこんな迷路みてえなんだよ。

なんでもこの地下には旧日本軍の地下基地の跡地があったらしい。

いやな雰囲気だ。

あった、あった、フォアグラをとろうとしたとき、壁の一部がくずれた。

うわっ

階段だ。さびているが、

中におそろおそろはいつていく。

空気があり、湿気がある。

電気がまだきているのか、小さな光がずっとつづいている。

進につれ、防空壕だろうか、そんなもんがならぶ。

リアルだな、
怖い

「ユルギナアイモノヒトツ」

!
?

後ろをふりかえる。

誰もいない。

恐くなり逃げる賢三。

階段をあがり

外にでた、

なんだったんだ？！

会場

は、はあ、沢村さん、これ、フォアグラ。

びっくりにしてゐる沢村さん、

まわりの客がにげる。

え！？

ふりかえると、そこには2メートルのタフガイが。

いきりたっている

「ラルクアンシエル」

うわぁあ!!

会場をめちゃくちゃにし、ベルーガをつきやぶるタフガイ。

ガスカンにふれ会場大爆発。

しかし皆の証言むなしく、死体もあがらず

事件はおわった。

あれは一体なんだったのだろう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0021p/>

タフガイ

2010年11月19日06時47分発行